

[所 感]

長崎市議会議員 緒方 富昭

福州市友好都市提携30周年を記念しての親善訪問団96名(公式訪問団38名、市民訪問団20名及び経済訪問団38名)の一員として今回、私は、公式訪問団に参加させていただいた。

福州市との姉妹・友好都市関係の始まりは、30年前の1980年にさかのぼるが、その間の同市の経済発展には大変驚かされるものがある。今回の友好都市提携30周年を機に今後とも、職員間交流や水産業や水道分野などの技術交流を通して両市の友好な関係が維持されることをまずは強く願わざるをえない。

今回、私たち訪問団は4泊5日の行程で、2泊を福州市で、2泊を上海市で過ごした。

福州市で特に印象に残るのは、何といても同市の歓迎ぶりである。福州空港と宿泊するホテルでは、日本語で歓迎の意が示された横断幕が掲げられ、移動の疲れを忘れるほどの強い感銘を受けた。初日に行われた共産党福州市委員会の袁栄祥書記表敬訪問や歓迎晩餐会では、厳かな雰囲気でありながらも終始、友好的なムードの中で相互理解を深めることができた。

訪問2日目は、以前から関心があった「水産交流研修コース」に参加した。まず初めに連江県官塢海洋開発有限公司(昆布育種場)を視察したが、同施設では、コンブの養殖過程の説明を受けるとともに、コンブ加工品については試食もさせていただいた。コンブ加工品については、日本向け商品も見受けられたが、海外輸出に当たっては、いかにして国際競争力をつけていくかが大きな課題と思われた。

次に、アワビ海上養殖場を視察させていただいたが、中国全省の約40%に当たるアワビを生産していることもあってか、養殖を行っている同心湾に浮かべられた筏の数の多さと養殖面積の広大さには驚嘆せざるを得なかった。私が視察させていただいた施設だけで約3,000人の雇用を創出しているということであったが、今後も福州市における水産業の成長分野として注目されていくと思われる。

訪問3日目は、三坊七港を視察させていただいた。歴史ある中国において、明・清時代の建物は、当時の国のようなすを偲ばせることができた。福州市の施策により明・清時代の建物を修復していったとの説明を受けたが、福州市とは、規模は違うものの同じ歴史的建造物を抱える長崎市にとって、街並み再現や観光施設としての活用方法については、同市から学ぶべき点が多かったように思う。

訪問4日目は、上海万博及び「孫文と梅屋庄吉展」を視察させていただいた。上海万博については、詳細に見ることはできなかったが、連日40万人という入場者数の多さに圧倒させられた。日本館などの人気パビリオンは5時間待ちの日が続いているようであった。

「孫文と梅屋庄吉展」については、長崎市の観光をPRする展示やビデオ放映が行われていたが、上海市民を初め、上海万博を訪れる中国国民に長崎を知ってもらい、さらには訪問してもらえるきっかけになってもらえればと感じた。

最後に、中国を訪問して全般的に感じたことであるが、上海万博を機に大きく発展している様子が感じとれた。今後とも、長崎市と福州市のさらなる市政発展を願って、私の所感を締めくくりたい。